

## 視点(1625)

### 檄文：黒船と日本経済の再軌道!!

(檄文・日本再生物語編)

日本人は島国で隔離されたエリアであるため外からの影響が少なく、変化することがなかなか困難な国民とされています。

しかし、幕末の黒船襲来による「明治維新体制」や太平洋戦争の敗戦による「自由主義体制」は見事に日本の体制は急激にかつ根本的に変化しました。いずれも外圧（黒船襲来や敗戦）によるもので、いずれも武力を伴う革命で過去の延長線上ではない未来からの発想の変化(革命)でした。

日本人は急激な変化を嫌いますが、何か大きな圧力があると「すごい変革をする国民」です。意味は異なりますが、ベネディクト著の「菊と刀」の内容によると常日頃は“菊”を愛する優しい日本人は、非常時には武士の“刀”を用いる思い切った行動を取る二面性を持った国民であると分析しました。

明治維新(1868年)から太平洋の敗戦(1945年)までの「77年間」の国家体制から見ても、太平洋戦争の敗戦(1945年)から現在(2013年)の国家体制の「68年間」は、経済の変遷理論で言うところの「経済は50年(ゴンドラチェフは60年)で過去の延長線上ではない未来からの発想に基づく経済体制でなければ長期低落化の道」を歩むこととなります。

日本は戦後経済体制が始まった1945年から50年目の1995年に戦後日本が再構築した経済体制の耐用年数は終焉」していることとなります。

実は1995年の戦後の日本の経済体制の終焉を暗示する兆候として2つの経済上の出来事がありました。

1つは「1988年」に「モノ離れ経済がスタート」したことです。1979年に「物の豊かさより心の豊かさを望む消費者が多くなり」、1988年に「心の豊かさを望む消費者が50%を越え」ました。それゆえに1988年をモノ離れ元年と呼び、20世紀型経済である大量生産・大量販売・大量消費の20世紀型経済体制が実質的に終焉しました。

2つは「1991年」の「日本経済が金融経済化してバブル経済が崩壊」したことです。1979年からのモノ離れが進み日本経済は1980年代に急速に金融経済化(株や土地のモノではない資産への過度に集中した経済)へと進み、やがて実体経済と金融経済のバランスが崩れバブル経済が崩壊しました。

上記の2つの1945年より続いてまた戦後日本の経済体制の“綻び”の兆候の後の大変化を伴う技術革新(新需要創造)が行われなかったため日本経済のGDPは1991年から全く増加していません。日本のような先進国経済は20世紀型経済のモダン消費経済が続くと70%経済になります。どうしても21世紀型経済のニューモダン消費経済に脱皮しないと経済成長(?)はありません。

日本人は黒船襲来のような外圧があると、一挙に国民の意識が変わり、新しい時代に猪突猛進する性格を持っています。21世紀になって日本に3つの黒船襲来の外圧に相当する出来事がありました。

- ①第1は政治的要因の「尖閣諸島に関する日本と中国の摩擦」で日本人の平和惚けの状態から国家の主体性や国防、教育等の国家のあり方まで改革するための国民意識が高まりました。
- ②第2は経済要因の「リーマンショックによる金融資本主義の崩壊」による真の付加価値を伴う21世紀型の経済や消費のあり方に国が動き始めました。
- ③第3は社会的要因の「東日本大震災による日本人精神の復活」により単なる欧米式(西洋式)からの脱精神、脱消費、脱生活様式の方向に進み始めました。

今こそ武力を伴わず我々の意識を変えることによる「革命」を起こす絶好のチャンスです。21世紀は日本の時代です。

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>+</sup>  
代 表 六 車 秀 之